



令和8年9月10日(木) 第7号

学校教育目標

健康で明るく

心豊かな

主体的人間の育成

校章



校訓

健康な体

誠実な心

前進する力

考える力、伝える力 一日常の『意思ある行動』が育むもの

校長 石田 憲一

保護者の皆様、日頃より本校の教育活動へのご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

先日、私が地域で指導している少年サッカーの場で、印象的な出来事がありました。試合中、プレーの判断ミスについてある選手に「あの時、どう考えて動いたのかな？」と問いかけた時のことです。その選手は黙り込んだまま、一言も答えられなくなってしまいました。

普段から「なんとなく」の感覚でプレーしていると、偶然うまくいくことはあっても、失敗した時に「なぜうまくいかなかったのか」振り返ることができません。問いかけに対して「自分の考え」を言葉にできなかったのは、日頃から自分の判断や行動に意識を向ける習慣がまだ身についていないからだと感じました。

これは、スポーツに限らず、日々の学習や学校生活、そして社会に出てからの人生そのものにも深く関わっています。子どもたちが社会に独り立ちするまでに、私たち大人がしっかりと向き合い、身につけさせておきたい姿があります。

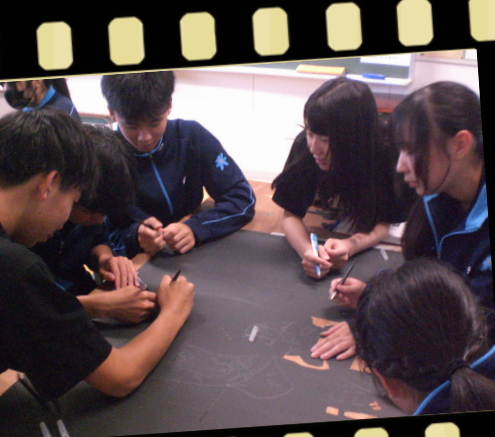
- ・気持ちのよい挨拶を、自分から当たり前に行うこと
- ・人の話に耳を傾け、まずは「素直に試してみる」柔軟さを持つこと
- ・自分の行動に「意思」を持ち、結果に対して自分で考える習慣をつけること

家庭での「どうしてそう思ったの？」といったちょっとした会話の積み重ねが、子どもたちの「自分で考え、自分の言葉で伝える力」の土台となります。失敗は決して悪いことではありません。大切なのは「なぜ失敗したのか」を自分で振り返り、次に生かすことです。

さて、3年生は2学期後半に「進路実現」に向けた三者懇談を控えています。その直前になって慌てて対話を図るのではなく、ぜひ今、日頃のお子さんの姿を振り返ってみてください。

- ・部活動の際や地域の方々に、自ら気持ちよく挨拶ができているでしょうか。
- ・学校や習い事の先生からアドバイスを、素直に試す姿勢は見られるでしょうか。
- ・物事の結果を他人のせいにならず、自分事として考えて行動できているでしょうか。

家庭の外で見せるこれらの姿勢に成長を感じられたとき、お子さんは確かな準備を持って三者懇談を迎えることができるはずです。子どもたちが自立した一人の人間として未来へ歩いていけるよう、ご家庭と学校が手を携えて、温かく、時には根気強く向き合っていければ幸いです。



KOYO PHOTO GALLERY



学校祭準備特集

